

■大阪夕陽丘学園高等学校 2024年度事業計画内容

NO.	項目	内容	目標
【1】	組織改革	①鍋蓋型からピラミッド型への改革 ・管理職以外横並びという意識があるが、校長とトップとしたガバナンスを構築	現行の働き方(個での働きや組織としての積上げの無さ)を、私学にとって大切な経営に必要な組織的な運営(組織的に働くことに大切さ)に切り換えて行く。
		②主幹教諭と指導教諭を配置 ・「職」として主幹教諭と指導教諭が配置され、よりピラミッド型の組織運営を実行する。	
		③校務運営委員会の役割の推進 ・校務運営委員会のメンバーが増えることでより役割を強化して、学内でのガバナンスを構築する。	
		④学年コースチーム担任制の導入 ・学年のコースを1つの単位として教育活動を展開する。	
		⑤働き方改革を促進し、働きやすい環境整備を行う。 ・教員の働き方自体を考え直す。	
【2】	教育改革	①各コースの目的・内容を精査する。 ・生徒募集につながる為に各コースの特色を精査する。	コースの特色と募集体制の強化をはかる。
		②言語技術導入 ・つくば言語技術教育研究所と連携し、言語技術(ランゲージアーツ)を学校設定科目として実施する。	今年度も教員5名がつくば言語技術教育研究所で研修を受ける。
		③PBL型研修旅行導入 ・very50aと連携し、修学旅行をPBL型の研修旅行(アントレチャレンジキャンプ)を実施する。	ver50との連携をとり、取り組みを行う。
		④スクールソーシャルワーカーを登用し、生徒指導の在り方を見直す。 ・スクールソーシャルを登用することで家庭、外部機関との連携を密にすることでよう育活動の充実をはかる。	家庭教育の強化をはかる。
		⑤新コース設置に向けた準備 ・新コース設置に向けた活動を実施する。	2025年度から自己探求科ORコースの設置を目指す。
【3】	教学面における改革推進	①自習室の運用 ・自律した学習者の育成を目指し、放課後の時間を利用して、自らの課題を自ら発見し取り組む	毎回、100名以上の利用者を目指す。
		②スクールポリシーの策定 ・グラデュエーション、カリキュラム、デュプロマにおけるポリシーの策定	
		③カリキュラムマネジャーを登用し、カリキュラムの抜本的な改革を実施する。 ・令和7年度実施する週5日制に向けて作成する。	1年間30単位での教育活動の成立を目指す。
		④GIGAスクールへの対応 ・ICT利用をした学習活動を継続実施する。	プロジェクター、iPadの使用率を高める。 スタディサプリの活用を進める。
		⑤教師力の向上 ・教員における組織的なFD/SD研修の検討と実践	夏休みに研修会を実施する。
【4】	生徒募集	①募集活動を紙ベースからホームページを中心としてSNSに移行する。 ・ホームページを前面リニューアルし、Instagram、X(旧Twitter)を活用する。	SNSでの発信を強化する。
		②出口戦略 ・どうい方法で進学するのかを明確にする事で、より高い目標を描く。	450名以上生徒数を確保する。
		③入試広報活動の強化 ・塾対策の強化と、中学校教員へのアピール強化推進	
		④転退学者の減少 ・1年生の初めのオリエンテーションを1週間とし、丁寧な指導をおこなうことで、ミスマッチをなくす。	転退学者を5%以内にとどめる。
		⑤強みを再確認する ・強みを再確認し、アピールすることで毎年450名以上の生徒を確保する。	強みを再確認することは、地域における大阪夕陽丘学園高等学校の存在意義を理解する。
【5】	学外機関との連携	①SDGsの推進 ・生徒会活動を中心にSDGs活動への取り組みを実施する。	生徒会活動を中心にSDGsを広げる。
		②「総合的な探究の時間」の活用 ・色ろいな学外機関との連携をきっかけに学校という枠を超えて学習する機会を構築する。	学内だけの教育活動では限界がある。 他期間との連携を実践する。
		③活育財団との連携を推進する。 ・イングリッシュキャンプなど活育財団が得意とする教育活動を取り入れる。	
		④各企業との連携 ・各企業とつながることで生きる力を身に付ける。どんな取り組みができるか模索する。	
		⑤IFU・台湾サポートセンター・ISAとの連携 ・英語国際コースを中心に海外大学への進学を推し進める。	海外大学の進学者10名を目指す。